

深海魚の打ち上げと地震との関係

この所、日本海側で深海魚のリュウグウノツカイが多数発見されるという事がニュースとなっており、2月9日には時事通信社でも配信されました。

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190209-00000038-jij-soci>

この記事には、DuMA/CSO が所属する東海大学海洋研究所の織原義明特任准教授のコメントとして、「実は 09 年冬にも日本海側で多く姿を見せたが、何も起きなかった。今回も特に心配する必要はない」という事が述べられていますが、ヘッドラインでは「無関係」と断定的に表現されています。

確かに深海魚（特にリュウグウノツカイ）が打ち上げられますと、「すわ地震か」という報道になりがちです。確かに昔からリュウグウノツカイと地震との関係というものが話題となっているのは事実ですが、実際に織原准教授が調査を行った所、深海魚の打ち上げは日本海で非常に多く、逆に海域での地震が多い東北地方太平洋側ではあまり記録されていない事もわかってきました。

つまり、頭から100%否定するのも、盲信するのも科学的な態度ではありません。メディアがつける記事のヘッドラインは、研究者（情報提供者）側ではどうする事も出来ず、「無関係」という強い言葉で報道されてしまいました。これは織原准教授としては本意ではありません。織原准教授はすでに鹿島灘における鯨類の漂着等と地震との関係について論文を公表しています。

http://www.scc.u-tokai.ac.jp/iord/bulletin/files_for_bulletin/36_39-46orihara.pdf

現在、深海魚と地震との関係についても論文化を進めている段階です。

東海大学海洋研究所では、このような理系と文系の境界領域の研究も進めていく所存です。

インドネシア、アナクラカタウ火山の山体崩壊

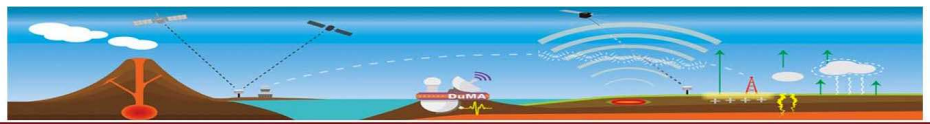
昨年12月22日にインドネシアのクラカタウ火山が噴火し、その時に山体崩壊が発生し津波が発生いたしました。火山が原因となる津波には、このような山体崩壊や、それに付随して発生した海底地滑りが原因となります。つまり海底で大きな地形の変動が発生した場合に、海面が変動（変形）し、それが津波となるのです。今回の噴火前後のアナクラカタウ島の写真を入手しましたので、ここに紹介させていただきます。



噴火前のアナクラカタウ火山

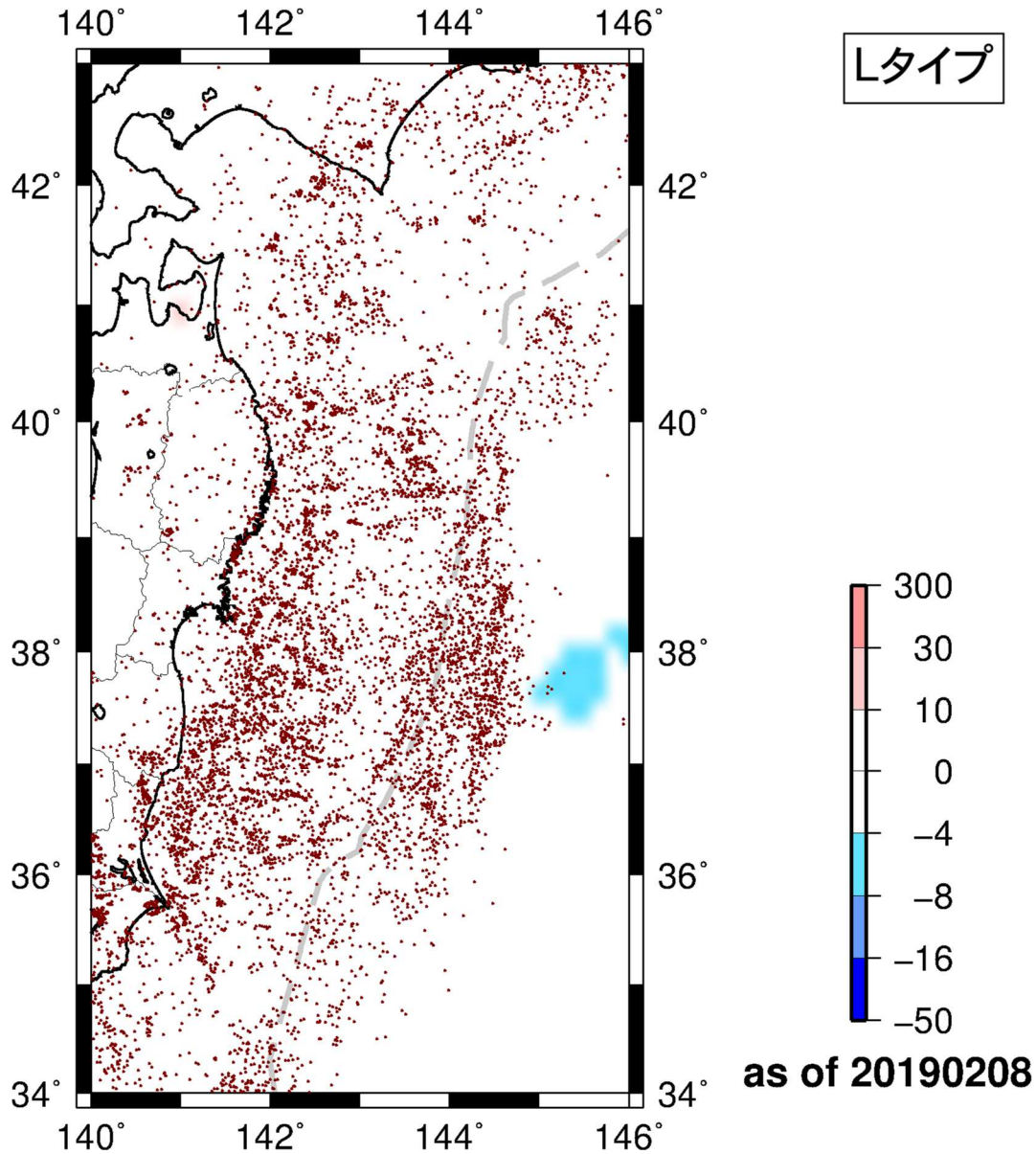


噴火後のアナクラカタウ火山(AFP ウェブサイトより)。山体のほとんどがなくなっていることがわかる。



東北地方海域の地下天気図®

1月7日のニュースレターに引き続き、東北地方沖合の海域に特化した解析です。次に示します地下天気図は2月8日時点のLタイプです。Mタイプもほとんど同じパターンを示しています。図中の茶色の点は2011年夏以降の解析に使用したすべての地震の発生位置です（震央）。



岩手県沖に青い静穏化の部分が出現しましたが、このあたりはほとんど地震が発生しない地域です。そのため、この静穏化の精度は低いと考えています。DuMAでは1月7日のニュースレターでお知らせしました通り、岩手県の沖合のほうが地下天気図的には規模の大きな地震発生の可能性が高い地域と考えております。